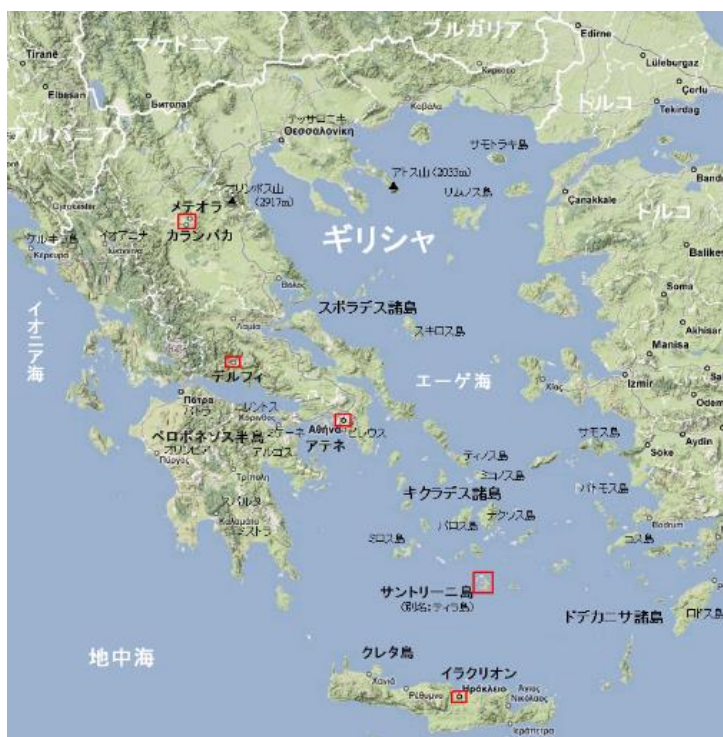


## ギリシャ経済は立ち直ったか（550号）

2024年 1月 石館

ギリシャ国債の格付けは13年ぶりに投資適格級に復帰した。2010年代前半の欧州債務危機の発端となったギリシャの復活を印象付けた。有能な若者の流出といった危機の爪痕はなお大きく、経済の再生は道半ばだ。



ギリシャは日本国土の約3分の1、人口は1100万人弱である。

2009年にギリシャで政権交代が起き、新政権は“過去の財政赤字のデーターに攻竄”があったと発表した。

2009年のギリシャの財政収支は当初GDP比で3.7%であると前政権は発表したが、実際には12.5%の財政赤字を抱えていることを明

らかにした。その途端、市場ではギリシャ国債に対する不信が表明され、各付け会社がギリシャ国債の格下げを数度にわたって行い、ギリシャ危機が起こった。

ギリシャの経済規模はユーロ圏の3%程度であり、この程度であればユーロ圏から切り離せばよいように見えるが、実はフランスやドイツがギリシャの国債を大量に購入しており、実際は各国が赤字国債を互いに買って支えあっている。ギリシャがデフォルトを起こすと、フランスやドイツの大銀行は痛手を被り、フランスやドイツの金融システムが崩壊する危機に陥る恐れがあった。

EUはギリシャの財政危機を放置することは出来ず、ギリシャに、公務員の削減、賃金や年金のカットなどを含む超緊縮財政の導入を条件にEUは財政支援をすることになった。

小生は初めてのドイツ駐在の時の1967年休暇でギリシャに行き、美しい景観と美味しい料理にすっかり魅了された。その後仕事、休暇を含めたびたびギリシャを訪れたがギリシャに対する考えは変わらなかった。勿論ギリシャにも負の側面もあり、時間を守らない、泥棒が多い、等等あるがこれは南欧の国々に一般的にあることである。



アクロポリスの神殿

当然のごとく、EUから課せられた超緊縮財政に対し国民の不満は強かった。この国民の緊縮生活の疲れを突いて、給与の増額、年金カットの廃止など国民の喜びそうな公約を

並べ立て、急進左派連合を中心とした左派連合政権（Syriza）が誕生した。

この左派連合政権の党首チプラスに率いられた新政権は国民に対する公約を守るため、EUに対し、ギリシャに対する債権のカット、支援の継続、緊縮政策の緩和といった一方的な虫の良い条件交渉を始めた。この背景にはギリシャがユーロ圏を離脱すれば、困るのはEUであろうから、かなり譲歩するのではないかとの読みがあった。



チプラス首相

一方ドイツをはじめとする財政状態が比較的良い北部諸国は、ギリシャの離脱は自国経済にある程度跳ね返ってくるものの、ギリシャは自国の置かれた立場を分かっていると反発を強め、ユーロ圏離脱をさせた方がよいとの強硬意見も出た。支援継続の交渉はギリシャのデフォルト期限が迫って

おり、また民間銀行からの資金逃避が加速しており、ギリシャ側も追い詰められていた。最終的にはギリシャの構造改革を継続する条件で4か月の支援延長が決まった。

確かにギリシャが EU 側の出方を甘く見ていたところがある。しかし実際にユーロ離脱となるとさらに厳しい現実がギリシャを待っている。通貨ドラクマは暴落し、今抱えている債務は数倍に膨らみ、国債も発行できなくなり財政は破綻して公務員の給与も年金も払えなくなる。

この時は4か月の支援延長が決まったものの、根本的な問題は何も解決していない。しかしギリシャはまず目先の問題を解決せねばならず、長期的な国家の方向性を考える余裕がなかった。



美しい景観と裏腹に国民は緊縮政策の下苦しんでいた。

2019年の選挙では新民主主義党のミツオタキス代表が Syriza 政権による人気取り的方法論を批判し常識的な政治手法で政治に取り組むとして勝利した。

ミツオタキス政権の下、ギリシャ経済は徐々に持ち直し、同政権の経済運営は評価されてきた。特に22年コロナが収束に向かうと、ギリシャの最大の産業である観光業が活況を呈し始めた。23年の公的債務残高は20年から2割近く圧縮された。



ギリシャ再選挙、与党が勝利 ミツオタキス首相続投へ - CNN.co.jp

23年6月に行われた選挙でも、経済運営が評価されミツオタキス氏の首相の続投が決まった。

しかし手放しでは喜べない。公務員のリストラや年金削減などの緊縮

策で国民の手取りは大幅に減った。住宅の賃料も高騰した。22年以降はインフレが追い打ちをかけ、生活に困窮する人が増える。EU などから受けた救済融資の返済が終わるのは70年の予定だ。子や孫の世代がツケを払う。しかし国債の

格付けが良くなったことは、外国からの良い条件での資金の流入を促す。今回の危機は人々の意識にも変化を促した。昔はあまり働かずして沢山お金がもらえたが、今はたくさん働くことでそれなりに稼げる時代変わったと市民は言う。

ドイツを中心に深刻なスタグフレーション（高インフレと経済停滞の同時進行）にさいなまされる欧州経済だが、例外的に明るい見通しの国もある。その代表格がギリシャだ。ギリシャの景気は主力の観光業が打撃を受けたことなどから、コロナショック直後にはユーロ圏全体より深刻な落ち込みを経験した。

その後も2020年の間は、ギリシャの景気回復力は弱いままだった。しかし2021年に入ると、設備投資や輸出が息を吹き返し、ギリシャの景気は急速に回復した。さらに行動制限の緩和で旅行需要が刺激され、観光業も復活して景気回復を牽引するようになった。2022年にはユーロ圏全体を上回るテンポで、ギリシャ経済は成長している。

10年以上前の危機の時代には、この国に多く投資した外国人に対し市民権を与えるといった、国家の財産を切り売りするような施策を取り、中国やロシアの富裕層が土地を買いあさりその上大量に市民権を取得した。最近はその条件を厳しくしたようであるがもっと厳しくしてもらいたい



約50年も前のギリシャの海岸で娘と撮った写真（古い写真で不鮮明であるが）

再びギリシャを訪れることはもう無いと思うが、天の配剤ともいべきエーゲ海に囲まれた美しいギリシャの景観を何とか守ってもらいたいと切に

祈っている。